

令和5年度 教育論文(学力向上)

すべての生徒が学びを実感できる学習指導の充実
～自ら考え、主体的に学ぶ生徒の育成～



甲佐町立甲佐中学校

研究同人

目次

はじめに

I 研究の概要

1	研究主題	1
2	主題設定の理由	1
3	研究主題の仮説	2
4	研究の視点	3
5	研究の構想	3

II 研究の実際

1	授業改善部会の取組	4
	(1) 甲佐中授業スタイルの共有	
	(2) 「〇〇タイム」の共通実践	
	(3) 甲佐カップ基礎テストの実施	
2	キャリア教育部会の取組	8
	(1) 各学年での系統的な実施	
	(2) キャリアパスポートの取組	
	(3) SST や SGE を活用した対人スキル向上や支持的風土づくり	
	(4) 委員会内容をクラスで共有	
	(5) 週目標をクラスで振り返り	
3	家庭学習部会の取組	11
	(1) 意欲を高める取組	
	(2) 家庭学習の習慣化に向けた取組	
	(3) 生徒の主体性を高める「1UPタイム」の取組	

III 研究の成果と課題

1	具体的実践項目の検証（仮説に対するの検証）	14
2	今後の志向	20

おわりに

参考・引用文献

研究同人

はじめに

「知識基盤社会」の時代において、激しい社会情勢の変化や、新しい未知の課題に柔軟に対応することが求められている。また、子どもたちを取り巻く状況の急激な変化は、目まぐるしく、超スマート社会（Society5.0）の到来とともに、高度情報化、グローバル化や人口減少など社会構造、社会情勢の変化は今後さらに加速し、教育環境もさらに大きく変化することが予想される。さらに、災害や感染症のパンデミックの経験は、予測困難な「VUCA時代」の到来を鮮明にした。そのような状況に対応すべく、学校は確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」を育むことを大きな柱としてきたが、各種の調査結果からは思考力・判断力・表現力等についての課題や学習意欲、学習習慣・生活習慣についての課題、また、学ぶ意味の理解不足が課題としてみられる。また、これらと連動した、自信の欠如や将来への不安、さらには体力の低下といった課題などへ適切に対応していかねばならない。

特に、「生きる力」を育むための大きな要素となる「確かな学力」の育成に当たっては、各学校が総体となって研究が進められているところであるが、その学校組織の一端を担う者として、主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善のために、さまざまな工夫と努力を重ね、研究を進めていくことは必須である。また、現行学習指導要領の次回改訂に向け、中間地点を迎えていることから、これまでの実践を踏まえた検証・改善が必要であろう。

本研究は、これまで「学力向上重点支援地域」として取り組んできたことを踏まえ、主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善のために、単元構想を強化し、効果的にICTを活用する視点と、学力定着のために、家庭学習をより主体的に取り組めるようにするという視点、さらに夢や希望を持つことで主体的な学びにつなげるというキャリア教育の視点で、研究・実践を重ねたものである。

ここに本年度の取組をまとめ、自ら総括することにより、今後の研究・実践に生かし、本校研究主題と教育目標である「覇気みなぎる生徒の育成」に迫りたい。

Ⅰ 研究の概要

1 研究主題

すべての生徒が学びを実感できる学習指導の充実 ～自ら考え、主体的に学ぶ生徒の育成～

2 主題設定の理由

(1) 今日の教育課題から

新学習指導要領が全面施行され3年目を迎えた。昨今、AI技術の進展や世界情勢が激変する社会の中で、主体的に生き抜く力（資質・能力）をもった生徒の育成が求められており、今回の改訂でも学校教育の重要性が改めて確認されている。

熊本県では、「熊本の学び」を推進しており、すべての子どもたちが「学ぶ意味」を問いながら、「能動的に学び続ける力」を身に付けることを目指している。また甲佐町は、熊本県教育委員会より「学力向上重点支援地域事業」の3年間の指定を受けている。今年度も、県教育委員会が策定した「熊本の学び」をもとにして、誰一人として取り残さない学習指導を目指した研究を行う。

(2) 本校の教育目標から

本校の教育目標は「夢に向かって ともに高めあう 覇気みなぎる生徒の育成」である。これは、夢や目標の実現を目指し、知性を磨き合い、豊かな心を育み、健やかな体を鍛え合う中で、生徒一人一人が自分や他の人を大切にし、将来的に激変する社会を構成する一員として自立していくために必要な能力や態度を育むものである。本校研究主題の具現化は、この学校教育目標への到達を可能にするものである。

(3) 本校生徒の実態から

本校生徒は行事や学校生活に一生懸命取り組む生徒が多い。しかし、学力や学習意欲の個人差が大きい。特に、家庭学習においては、少しずつ習慣化されてきたものの、受け身の学習姿勢の生徒が多く、自ら課題設定したり計画したりする力に課題がある。表1は、令和4年度熊本県学力・学習状況調査の生徒質問紙の結果である。

表1 R4 熊本県学力・学習状況調査生徒質問紙結果の比較

	R4 県平均	R4 本校	差
① 将来について、夢や目標がありますか？	73.5%	72.4%	-1.1
② 家で勉強する時に、自分で計画を立てていますか？	50.3%	47.0%	-3.3
③ 分からない問題があった時そのままにしている。	—	※22.6%	—

※のみ R4 全国学力・学習状況調査における3年生の結果

表1の「将来について夢や目標があるか」や「家で勉強する時に、自分で計画を立てていますか？」の項目では、経年比較で向上が見られるものの、県平均と比べて下回っている。また、「分からない問題があった時そのままにしている」を選んだ生徒が約2割いることが読み取れる。このように、将来に対する関心の低さが影響して、自分の進路に対して展望がもてず、学習への意欲を低下させている側面がある。

表2は、令和4年度（昨年度）熊本県学力・学習状況調査における、本校の正答率を示したものである。

表2 R4 熊本県学力・学習状況調査結果（県平均を100とした場合）

1年生(現2年)	国語	数学	英語
R4 結果	95.42	94.89	100.97
2年生(現3年)	国語	数学	英語
R4 結果	94.76	87.60	88.34

1・2年生ともに県平均を下回っている教科が多く、観点や領域ごとに分析しても厳しい結果であった。この調査結果からも、生徒の学習意欲や学力向上のため、学習指導の充実が急務であると言える。

3 研究の仮説

本研究では、3つの仮説を立て、仮説ごとに部会を設置した。3つの部会の取組が相互に連携し合い、相乗効果を生み出せるような研究実践を目指す。

【仮説1】 授業で、熊本の学びを意識した授業構想を行い、生徒に「できた」「わかった」を実感させる甲佐中授業スタイルを教師が共通実践していけば、生徒の学習意欲が高まるだろう。 [授業改善部会]

【仮説2】 地域と協力してキャリア教育を行ったり、SGEなどの学級風土づくりや自己肯定感を高める取組を行ったりしていけば、自分に自信が付き、将来の夢や目標をもつだろう。 [キャリア教育部会]

【仮説3】 日々の学習を自分で計画する取組を行い、生徒の主体的に学ぶ態度や学習意欲を高めていけば、家庭学習が習慣化され、学力向上につながるだろう。 [家庭学習部会]

4 研究の視点（具体的な実践項目）

- 仮説1 [甲佐中授業スタイルの共通実践, 学習の達成感を実感させる取組]
 仮説2 [地域と連携した系統的なキャリア教育, 学級風土や人間関係構築の取組]
 仮説3 [学習意欲を向上させる取組, 主体的な学習計画や習慣化を図る工夫]
 すべての仮説に共通する実践 [ICT 機器（個人用タブレット）の効果的な活用]

5 研究の構想

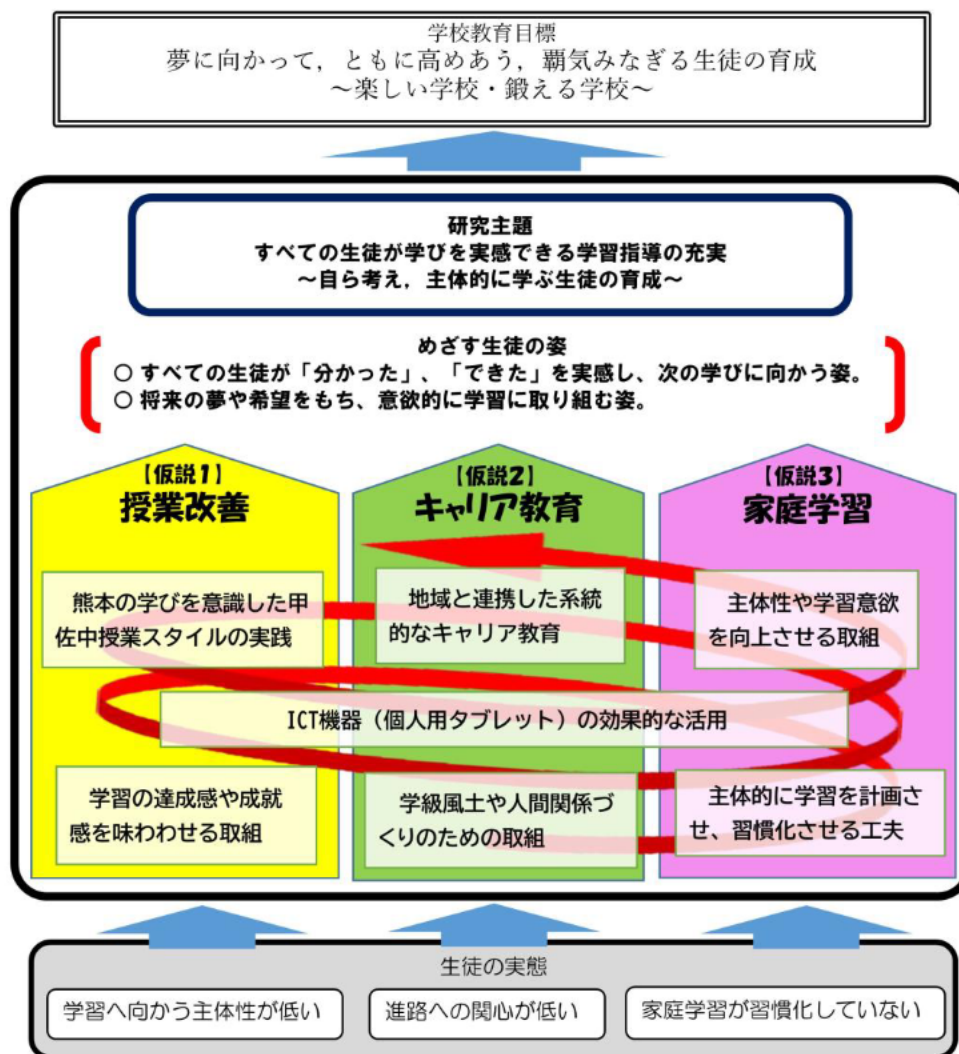


図3 甲佐中の研究構想

学校教育活動の中にキャリア教育を系統的に位置づけて生徒の学習意欲向上を図りながら、全職員で共通理解のもと授業や家庭学習などの学習指導方法の改善に取り組むことで、生徒の学力向上を目指した。また、本研究の進捗を、研究部のアンケートに加え、県および全国学力・学習状況調査や『熊本の学び』アクションプロジェクト～上益城 R5～、県の参考指標および学校経営構想で掲げた数値目標から確認し、取組の評価、改善を進めた。なお、アンケートについては、一人一台の端末を活用し、効率化を図った。

II 研究の実際

1 仮説① 授業改善部会の取組

(1) 甲佐中授業スタイルの共有

生徒が、すべての授業で同じように安心して学べる環境を作るため、熊本の学びをもとにして、目指す授業の基本形である「甲佐中授業スタイル」(図4)を設定した。授業スタイルでは、熊本の学びの①～⑦の視点を意識して授業づくりをした。

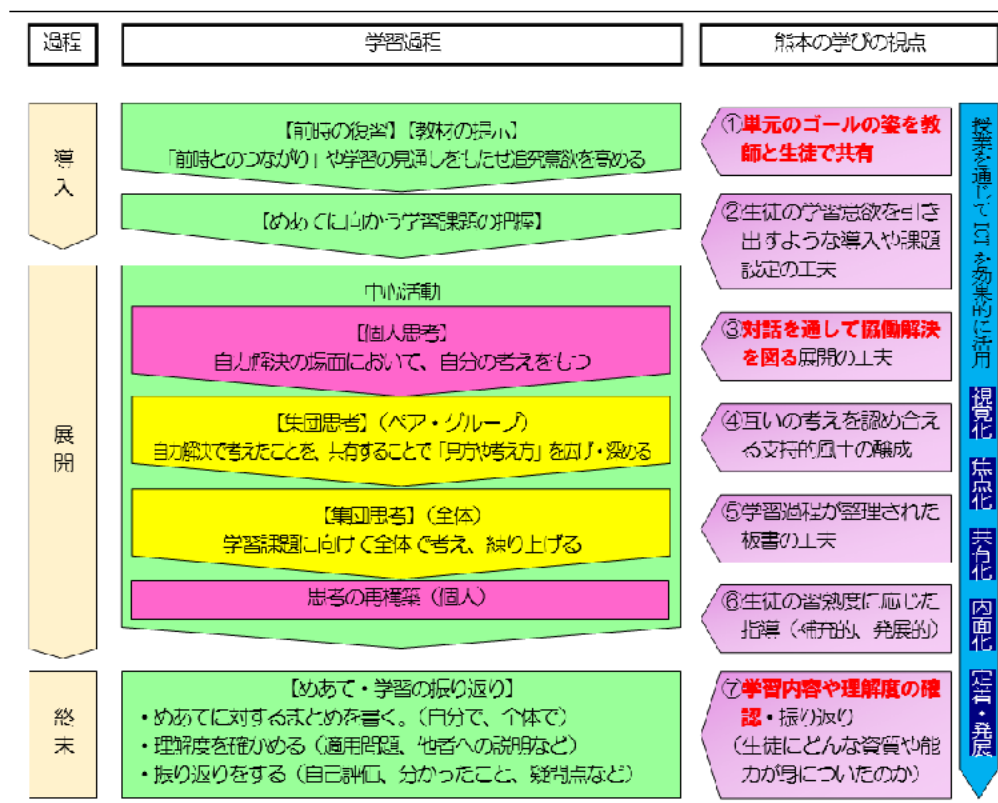


図4 熊本の学びをもとにした甲佐中授業スタイル










この授業スタイルを簡略化したイメージが図5である。導入において既習事項の確認を行い、展開で個人思考から協働解決を図り、終末で理解度の確認や振り返りをする流れである。この4つの「〇〇タイム」を軸にした授業スタイルを全職員で共通実践することで、授業改善を図った。



図5 授業での「〇〇タイム」の共通実践




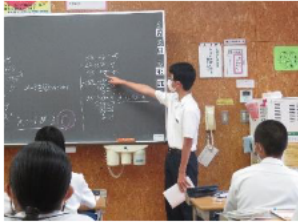

(2) 「〇〇タイム」の共通実践

① 理科での実践（1年生 物質の状態変化）

過程	学習活動	授業改善のポイント								
導入	<p>1 前時までの内容を振り返る。</p>   <div data-bbox="307 610 718 814" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【学習課題】 赤ワインからエタノールを取り出し集めるためには、どのような方法があるのだろうか。</p> </div> <div data-bbox="307 825 959 898" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【めあて】（ ）で課題を解決できる。</p> </div> 	<p>チェックタイム</p> <p>ICT を活用し既習内容(エタノールの性質や融点,沸点等)を確認することで,本時の課題について考えられるようにした。また,学習課題を受け,めあてを設定させた。めあては個人の学び方について記述させることで,個人で最適な学び方(他のグループと交流しながら,や対話中心に,など)を選択できるようにした。</p>								
展開	<p>2 仮説の設定</p> <p>シンキングタイム、アクションタイム、etc.</p>   <p style="text-align: center;">自己調整力</p>  <p style="text-align: center;">相互啓発</p> <p>3 実験方法の立案</p>  	<p>シンキングタイム</p> <p>タブレット上のヒントカード(動画やシンキングツール等)を参考にしたり,他者と情報交換したりしながら,赤ワインからエタノールを取り出す方法を考察し,仮説を設定した。</p> <p>解決の見通しが立った実験グループは教員に説明し,許可が出たグループから実験方法の立案に移った。</p> <p>アクションタイム</p> <p>実際に使う実験器具を操作しながら,グループで実験方法を立案した。途中,別のグループ同士で相談し合う時間を設けたことで,方法を再検討するグループも現れた。</p>								
終末	<p>4 本時の学習をまとめ、振り返る。</p>  <div data-bbox="605 1749 965 1981" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">振り返りの8つの視点</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>① 分かったこと, できるようになったこと</td> <td>② 分からなかったこと, できなかったこと</td> <td>③ 友達のを聞いて発見したこと</td> <td>④ 自分の考えが変わったこと</td> </tr> <tr> <td>⑤ 自分にとって役に立ったこと</td> <td>⑥ 生活に生かしたいこと</td> <td>⑦ 疑問に思ったこと</td> <td>⑧ もっと知りたいと思ったこと</td> </tr> </table> </div>	① 分かったこと, できるようになったこと	② 分からなかったこと, できなかったこと	③ 友達のを聞いて発見したこと	④ 自分の考えが変わったこと	⑤ 自分にとって役に立ったこと	⑥ 生活に生かしたいこと	⑦ 疑問に思ったこと	⑧ もっと知りたいと思ったこと	<p>チャレンジタイム</p> <p>最後に, 学習課題に対する答えをまとめに, 振り返りの8つの視点からめあてに対する結果を振り返りに記述した。ロイロノートを活用し, 思考を可視化・共有化することで, 考えを深めていた。</p>
① 分かったこと, できるようになったこと	② 分からなかったこと, できなかったこと	③ 友達のを聞いて発見したこと	④ 自分の考えが変わったこと							
⑤ 自分にとって役に立ったこと	⑥ 生活に生かしたいこと	⑦ 疑問に思ったこと	⑧ もっと知りたいと思ったこと							

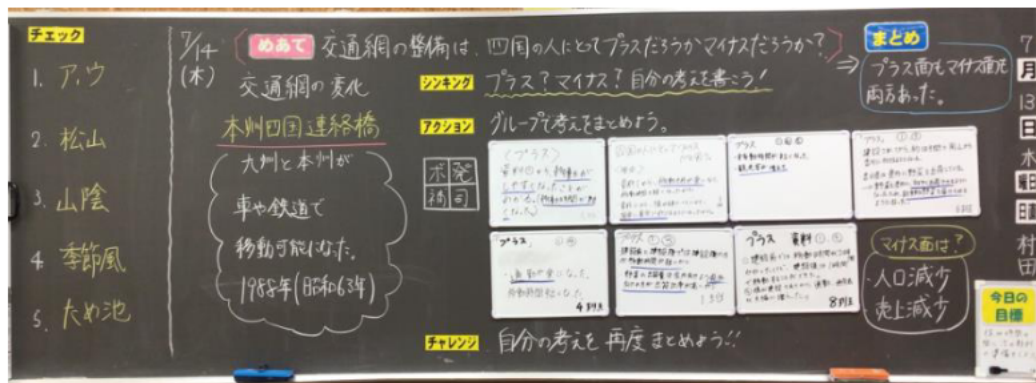
資料6 理科での実践の様子

② 数学科での実践（2年 連立方程式）

過程	学習活動	授業改善のポイント
導入	<p>1 前時を振り返り，本時の課題をつかむ。</p>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>【問題①】$\begin{cases} 3x - 4y = -15 \\ 2x + 3y = 7 \end{cases}$</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 5px;"> <p>【めあて】 係数が違う連立方程式を解くことができる。</p> </div>	<div style="background-color: yellow; padding: 2px; border: 1px solid black; margin-bottom: 5px;"> <p>チェックタイム</p> </div> <p>基礎の問題を小テストとして振り返りを行うことで，苦手意識のある生徒も授業にスムーズに入ることができるようにした。</p> <p>前時の振り返りをするすることで，本時の問題に対して変化に気づいたり，疑問を持ったりすることで問題意識を明確にし，共通の課題を見出だせるようにした。</p>
展開	<p>2 問題解決にむけて活動する。</p> <p>① 個人で考える。 ② 全体で考えを出し合う。</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid orange; border-radius: 50%; padding: 10px; margin-right: 10px; color: orange;"> <p>私は，こうやって解いてみたよ。</p> </div>  <div style="border: 1px solid green; border-radius: 50%; padding: 10px; margin-left: 10px; color: green;"> <p>この問題，どうやって解いた？</p> </div> </div> <p>3 まとめをする。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; background-color: yellow; padding: 5px; border-radius: 10px;"> <p>再思考の場面</p> </div> <div style="border: 1px solid black; background-color: yellow; padding: 5px; border-radius: 10px;"> <p>全体共有の場面</p> </div> </div>	<div style="background-color: yellow; padding: 2px; border: 1px solid black; margin-bottom: 5px;"> <p>シンキングタイム</p> </div> <p>個人で考える時間を確保する。自分なりの考えやつまずきなどを確認した上でシンキングタイムに臨めるようにした。解き方を悩んでいる人の発言を取り上げ，その悩みを全員で解決するように進めた。</p> <div style="background-color: yellow; padding: 2px; border: 1px solid black; margin-top: 10px;"> <p>アクションタイム</p> </div> <p>多様な考え方や解法を出し合いながらよりよい解き方について見方・考え方を深める。ロイロノートで自分のまとめを提出させ，共有した。全体で手本にしてほしいまとめをとりあげて検討し，ノートにまとめを残させた。</p>
終末	<p>4 適用問題に取り組む。</p>  <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 50%; padding: 10px; margin-left: 10px; color: blue;"> <p>効率よいやり方を見つけたね。ナイス挑戦！</p> </div> <p>5 本時の学習を振り返る。</p>	<div style="background-color: yellow; padding: 2px; border: 1px solid black; margin-bottom: 5px;"> <p>チャレンジタイム</p> </div> <p>適用問題を2パターン用意して，レベルの高い生徒も挑戦できるように工夫した。「先生からの挑戦状」として示し，挑戦意欲を高めた。また，ロイロノートを使って振り返りを行い，学びの履歴を残していった。さらに，これをもとに，生徒が成長を実感できるような声掛けを心がけた。</p>

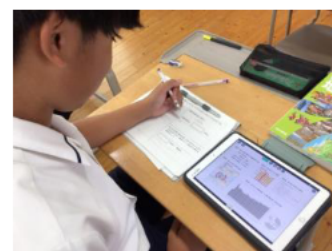
資料7 数学科での実践の様子

③ 社会科での実践（2年 中国・四国地方）



資料8 授業での板書例

社会科では、資料8のようにチェックタイムで5問テストを行い、シンキング（個人）→アクション（グループ）で協働学習を行った。黒板で思考の流れが分かるようにし、電子黒板やタブレットなどを併用して授業を展開した。（資料9）



資料9 ICT活用の場面

(3) 甲佐カップ基礎テストの実施

甲佐カップ基礎テストを学期に1回行った。すべての生徒の基礎的・基本的な学習内容の定着はもちろんであるが、学力的に厳しい生徒が「分かった」「解けた」「できた」などの達成感や成就感を得ることで、学習意欲が向上することを目標に取り組んだ。練習問題は国数社理英の教科担任から1週間前に示され、朝自習や家庭学習で反復練習させることで十分問題に慣れさせて、テストに臨ませるようにした。今年度からは、練習問題の中から一部期末テストに出題されることになり、「練習問題を頑張っておけば、期末テストの得点になる！」と学力が厳しい生徒にとっての意欲付けになった。また、採点后にすべての教科で満点を取った生徒にパーフェクト賞（資料10）を、4教科で満点をとった生徒にコンプリート賞を準備し、集会などの際に表彰した。



資料10 満点の生徒への賞状

2 仮説② キャリア教育部会の取組

(1) 各学年での系統的な実施

① 1年部（地域調べ）

近年，甲佐町内外の若手事業者が町づくりを展開し，町が活気づいている。その，まちづくり団体「パレット」の方から甲佐町についての講話を聴き，「甲佐町発見プロジェクト」と題して，地域調べ学習を行った。個人や班でテーマ決め，インターネットや直接インタビューなどで調査を行い，スライドにまとめて発表会を行った。自分たちの町への思いや新しいアイデアを入れた興味深い内容の資料ができ，お礼と一緒に各施設等へ配付した。



資料 11 地域調べ学習の様子

② 2年生（職業講話・職場体験）

職業講話では，地域の事業所の方を招き，講話をしていただいた。そして，職業に対する意識を高めた後，3日間の職場体験学習を行った。地域の各事業所で，講話を聴いたり，働いたりすることを通して「職業観」や「勤労観」の育成を図った。また，生徒は実際に汗を流して働く体験を通して，労働の大切さを感じ取り，自分の姿を見直して，保護者をはじめ身近な人々の仕事を理解する機会とすることができた。



資料 12 地域での職場体験学習の様子

③ 3年生（就職ガイダンス・上級学校説明会・KOMI スク）

9月に，講師を招いて職業ガイダンスを行い，社会に必要な礼儀作法やコミュニケーションの取り方など，実際に体験しながら将来の進路選択時に役立つスキルを学んだ。

	<p><生徒の感想> 最初は上手いかなかった礼や挨拶の仕方も，何度か繰り返していくうちにできるようになりました。講師の先生からは，普段の生活からキャリアスキルを意識していくことが大事であることを学びました。また，たくさんの職業にかかわる資料もいただき，働くことへの興味・関心を持つことができました。</p>
--	---

資料 13 職業ガイダンスの様子と生徒の感想

10月上旬に、3年生の進路希望調査を参考とした12校の高等学校の先生方を招いて、上級学校説明会を行った。



上級学校説明会では、生徒一人ひとりが各高校の説明を真剣に聞き、高校の学習・生活などの知識・理解を深めるとともに、進路選択への意識を高めた。また来校された先生方に対して、おもてなしと感謝の気持ちを持って、3年生の全員が司会進行、挨拶、接待、準備など説明会の運営全般に関わり、生徒自らのキャリアスキルを向上させた。

資料 14 上級学校説明会の様子

10月下旬に、熊本県の「One Team プロジェクト」事業の一環として甲佐高校・御船高校合同の「KOMI スク」を本校で実施した。具体的には、それぞれの高校の特色ある取組の紹介や実技体験、さらには高校生の指導による専門教科の体験学習会などが行われた。

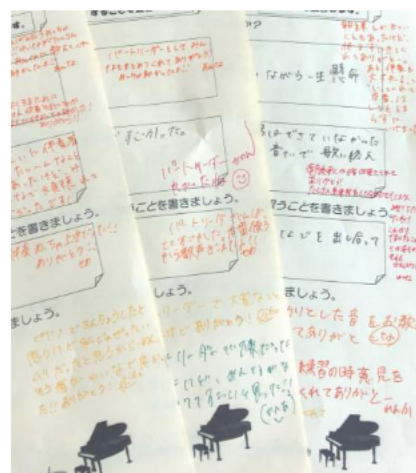


今回初めて実施された「KOMI スク」では、高校生と中学生の交流が活発に行われた。進路選択に不安や迷いがある生徒にとっては、甲佐高校、御船高校の普段の学校生活を知ることができ、両校の存在が身近なものになった。また、器楽演奏など貴重な体験をすることができ、高校進学への動機づけとなった。

資料 15 KOMI スク（高校生による学校説明・学習会）の様子

(2) キャリアパスポートの取組

キャリアパスポートは、生徒自らが学習や特別活動等において、先を見通したり、振り返ったりすることで、自身の変容や成長を自己評価し、キャリア形成に生かそうとする態度を養う取組である。今年度は、キャリア部会の話合いで、教師のコメントだけではなく、友達からもコメントをもらうことで自己肯定感の高まりがみられるのではないかという意見が出た。そこで、合唱コンクールの際には同じパートの仲間同士でコメントを書いてもらうようにした。生徒は他者からも評価してもらうことで自分の取組に自信を持つことができた。



資料 16 キャリアパスポート

(3) SST や SGE を活用した対人スキル向上や支持的風土づくり

体育大会後に、同じ団の先輩と後輩でメッセージを交換する取組を行った。また、文化発表会後には、学級内で友だちのきらりと輝くいいところを見つけ、カードに書いて伝えるという取組を全学年で共通実践した。これらを行うこ



資料 17 生徒同士の交流

とで、普段の生活や行事に向かう姿を互いに褒め合い、自己肯定感の高まりにつなげることができた。実際に、書いてもらった文章を読むことで「心がほっこりしました。うれしかったです。」と感想を綴った生徒もいた。

(4) 委員会内容をクラスで共有

すべての生徒が生徒会活動に責任を持って取り組む姿勢を保つため、また自分の仕事が学校の役に立っているという自己有用感を感じさせるため、委員会翌日の朝の会に、各ク



資料 18 共有の様子

ラスで共有する時間を設定した。これにより、委員会活動の話し合いに、組織の一員として意欲的に参加する生徒が増えた。また話し合った内容をどのように分かりやすく伝えるのかを考える機会になっている。今後も継続して取り組み、生徒の主体性の向上や委員会活動の充実を図りたい。

(5) 週目標をクラスで振り返り

より良い学校生活のために生活安全委員会から提示される「月目標」に加えて、生徒たちと私たち教師がより具体的に、ポイントを絞って取り組むために「週目標」を設定した。毎週行われる生徒指導委員会の中で、現在の各学年の実態を把握して週目標を設定し、各学級で周知して生活した。週単位での目標設定のため、生徒も教師も、簡単な目標ではあるが分かりやすく意識高く取り組むことができた。来年度以降は、実態把握や目標設定を生徒たちが行えるように工夫し、より主体的に活動できるようにしていきたい。



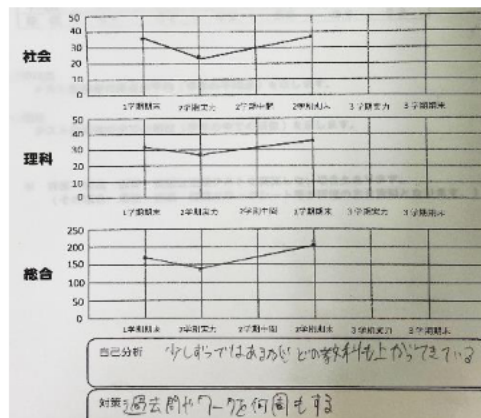
資料 19 生活目標

3 仮設③ 家庭学習部会の取組

(1) 意欲を高める取組

① 定期テスト定着度の視覚化

家庭学習の意欲を高める取組として、定期テストの点数を折れ線グラフにすることで、生徒自身が視覚的に学力の推移を確認できるようにした。アンケート結果では、この取組をすることで、78%の生徒が「家庭学習を意欲的にしようという気持ちが高まった」と答えた。



資料 20 可視化したシート

<生徒の感想>

- ・ 前回のテストよりもどれだけ点数が下がっているかがわかる。点数が低い教科は今度がんばろうという気持ちになる。
- ・ 成績が上がったものと下がったものがよくわかるので、次のテストでどこを注目して勉強したらよいか分かりやすかった。
- ・ 得意な教科と苦手な教科がはっきりした。暗記が苦手だということが分かった。
- ・ 全体的に低いけど、英語が特にやばいから、がんばらないといけない。
- ・ 苦手な教科はいつも低くて、勉強不足だということがよくわかる。

資料 21 生徒の感想

② 「自学に困ったらこれ」の実践

家庭学習の習慣化が図られていない生徒のアンケートを見ると、家庭学習ノート（自学）で何をしてよいか分からないと答えた生徒が多くいることが分かった。そこで、週に1度、学年ごとに自学の内容に困った時に参考にすることができる手引きを教科担当が作成し、1人1台の端末を活用して配付した。基礎定着（左列）と発展問題（右列）と分けて示し、学力に応じて選択できるように工夫した。家庭学習への意欲が低い生徒や、後述する家庭学習の計画（プランニング）が難しい生徒にとって、効果的な意欲づけとなった。

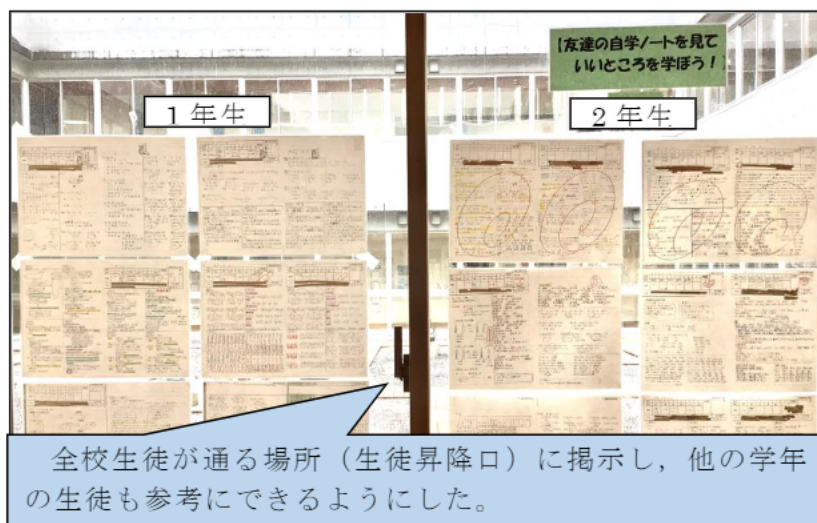
自学に困ったらこれ！ 11/20～11/26		
	基本を身につけよう	発展問題に取り組みよう
国語	漢字ノートの間線をくり返し書いて覚えよう。	山崎スィップ (p.95～) の発展問題をノートに解いて、部活に持たせよう。
社会	歴史 フランス革命～産業革命の 重要語句をノートに書いて 覚えよう。	歴史 ワーク p.26～27を解 き、間違えた問題がノート に書き出そう。
数学	定期テストで無い～！という 基本かつ重要な問題を解き、 特に1～3、14のやつを解いて、	定期テストの応用問題にこれ らを使って解いてみよう。 [28] などやってみよう。
理科	教科書 p.160～177 読成と電圧の復習をしよ う。審判人は、国産品の 書き方を練習しておこう。	問題集 p.41～43を解 いてみよう。
英語	単語力練習の印刷を毎日 解き、 副読本テスト、自テストの印刷を ノートに書いて覚えよう。	単語力練習の印刷を毎日 解き、 副読本の単語集、p.178、179 を毎日読んで復習できるように しよう。

資料 22 自主学習の手引き

③ 整理された家庭学習ノートの共有化

家庭学習の意欲を高め、学習内容の充実を図る取組として、整理された家庭学習ノートを生徒が見やすいように生徒昇降口に掲示して紹介した（資料 23）。ノートの例を共有したことで、掲示された生徒の学習意欲が向上し、学習の仕方が分からない生徒の参考になった。また、他学年の家庭学習ノートを見ることにより、よりよい学習の仕方に気づき実践しようとする姿が見られた。

この結果、「家庭学習を苦手なことを克服したい」や「テスト結果をもっと伸ばしたい」という明確な目標を持ち、取り組む生徒が増えた。



資料 23 家庭学習ノートの掲示

(2) 家庭学習の習慣化に向けた取組

① 家庭学習の計画（プランニング）の実施

帰りの会で、家庭学習の計画を立てる時間の確保を行った。その日に学習する教科や目標時間などを記入し、振り返りを行う取組を、全学年で共通理解のもと取り組んだ。また、昨年度までは生活と自学と2冊あったノートを1つにまとめ、1日の教科連絡や日記、家庭学習

家庭学習の計画				
5	6	諸連絡	内容	60分
書	総合 甲佐カッパ		自学 (整理と検定) 数学	
			甲佐カッパ	30分
			テスト勉強	60分
一言ひとこと				自己評価
Good!!				(A) B・C 150
家庭学習の計画を立て、振り返りができるようにした。				

資料 24 家庭学習の計画と自学

の計画、自学が1つのページで完結できるようにした（資料 24）。このように、帰りの会での学習計画から家庭学習への流れを作ることによって、家庭学習の習慣化を図った。

② 生徒の主体性を高める「1UPタイム」の取組

学習状況のアンケートを見ると、本校の生徒は「分からない問題をそのままにしている」と答えている割合が高い傾向にあった。これは、先生に質問したり友達に尋ねたりする時間がないことが一因であると考えた。そこで、先生や友達に自由に質問したり、お互いに教え合ったり、家庭学習のやり方を学んだりする時間を設定した。毎週木曜日の日課を工夫し、生徒が主体的に学ぶ「1UPタイム」を15分間設定した。

この取組は、2学期から始めたため、始業式の日には資料25を研究主任が全校生徒と共有しながら説明した。この取組で最も大事にしたことは、何かをやらされる（させられる）時間ではなく、「主体的に自分で学ぶ時間」だということである。毎週15分間が終わった時に、「今日はこれが1UPできた」と一人一人が実感できることを目標にして取り組んだ。

1UP タイム

15分前の自分よりも1UP!

毎週木曜日 15時35分～15時50分（15分間）

※各教室で学習の準備をして着席し、15時35分のチャイムで学習を始めます。

【目標・目的】
この時間は、分からない内容をみんなの方で少しでも分かるようになる時間です。また、家庭学習のやり方についてもじっくりと考える時間したいと思います。何かをやらされる（させられる）時間ではなく、「主体的に自分で学ぶ時間」です。15分が終わった時に、「今日はこれが1UPできた」と一人一人が実感できるのが目標です。

【具体的な内容】（例）
Aさん 数学の授業中にこの問題が分からなかったから、自分でもう一度解いてみよう。
Bさん 理科の実験内容について友達に教えてもらおう。
Cさん 社会の時間のプリントが全部置けなかったから、友達に貸してもらって写そう。
Dさん 英語の今日の授業内容のワークを解いて、理解しているか確かめよう。
Eさん 自習の内容を先生や友達に相談してみよう。
……このようにやることは一人一人違います。

※基本的に各クラス単位ですが、学年や学校全体で動くこともあります。テストが近づいたら、教科の先生が回ってくる時間も設定します。

資料25 1UPタイムの説明資料

<生徒の感想>

- ・今まで自分がわからなかった問題を先生や友達にきけて、問題が解けるようになって嬉しかった。
- ・分からない問題が解けて、その問題が実際にテストに出て解けた。
- ・いつもならやる気出ないし、家でもワークとか明日でいいやと思うけど、このおかげで集中して学習ができています。
- ・集中できるから、勉強が進んで楽しい。
- ・自分は教えてもらうより教えていることの方が多いから、言葉での説明の練習になる。
- ・友達と教え合うことで、仲良くなれた。
- ・授業では質問しにくい時があるけど、この時間は質問しやすい。



主体的に学習に取り組む姿

資料26 1UPタイムの様子と生徒の感想

III 研究の成果と課題

1 具体的実践項目の検証(仮説に対する検証)

(1) 仮説1について(授業改善部会)

【仮説1】 授業で、熊本の学びを意識した授業構想を行い、生徒に「できた」「わかった」を実感させる甲佐中授業スタイルを教師が共通実践していけば、生徒の学習意欲が高まるだろう。

① 成果

表27は、全校生徒へ2学期末に行ったアンケートの結果である。昨年度と比較すると、「授業で『分かった』『できた』と感ずることがあるか」の問いに対して、全校生徒の95%が肯定的に回答しており、授業において学びを実感していることが分かる。また、「授業に主体的に取り組んでいるか」の問いについても高い肯定率を保ち、授業における主体性や学習意欲が高い傾向にあることが分かる。最も注目すべきは、どちらの質問項目でも「ない」を選んだ生徒が0%になった点であり、すべての生徒が学びを実感できる学習が保障されていると言えるだろう。

表27 R4年度とR5年度のアンケート結果の比較

	授業で「分かった」「できた」と感ずることがあるか？				授業に主体的に取り組んでいるか？			
	ある	少し	あまり	ない	いつも	時々	あまり	ない
R4年度	40	53	6	1	47	43	7	3
R5年度	40	55	5	0	40	52	8	0

※単位%

次に示す表28は、2学期末の全校生徒アンケートで、授業中の「〇〇タイム」についてどう感じたかを、昨年度と今年度で比較した結果である。

表28 「〇〇タイム」についてどう感じたか？

	アンケート項目	R4年度	R5年度
1	前時とのつながりが感ずられるようになった	33	39↑
2	授業の流れが分かりやすくなった	33	39↑
3	今、何をする時間か分かりやすくなった	33	41↑
4	ペアやグループで協力する場面が増えた	28	35↑
5	学んだことが感ずられるようになった	21	22↑
6	今までの授業と特に変化は感ずない	24	13↓

※複数回答可 ※単位は% ※質問6は数値が低い方が向上を示す

昨年度の同時期と比較すると、1～5の項目すべてにおいて数値が向上した。また、6「今までの授業と特に変化は感じない」を選択した生徒が全体の13%に減少した。これらの変化は、甲佐中学習のスタイルが昨年度よりも生徒へ浸透し、多くの生徒が「〇〇タイム」の意義を感じているからだと考えられる。学年別の内訳を分析したところ、1年生は3「今、何をする時間か分かりやすくなった」の項目を50%の生徒が選択しており、中1ギャップの解消にも効果があったと考えられる。

② 課題

生徒アンケートの結果を見ると、「授業中に自分の考え（意見）を伝えているか？」の項目で、「あまり伝えていない」を選んだ生徒が全校生徒で2割程度いた。授業で、生徒が自分の考えをもち、発信することができるような手立てを、授業改善部会で考えていく必要がある。

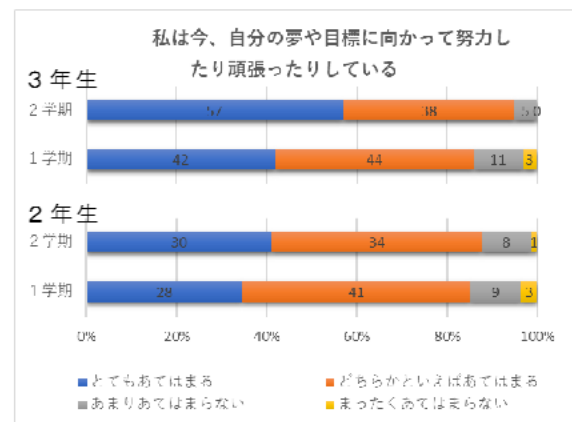
甲佐カップ基礎テストでは、教科によって難易度に差があったため、極端な平均点の差が生まれてしまった。学力低位に位置する生徒の意欲を向上させるという趣旨を再確認し、次年度の取組につなげたい。

(2) 仮説2について（キャリア教育部会）

【仮説2】 地域と協力してキャリア教育を行ったり、SGEなどの学級風土づくりや自己肯定感を高める取組を行ったりしていけば、自分に自信がつき、将来の夢や目標をもつだろう。

① 成果

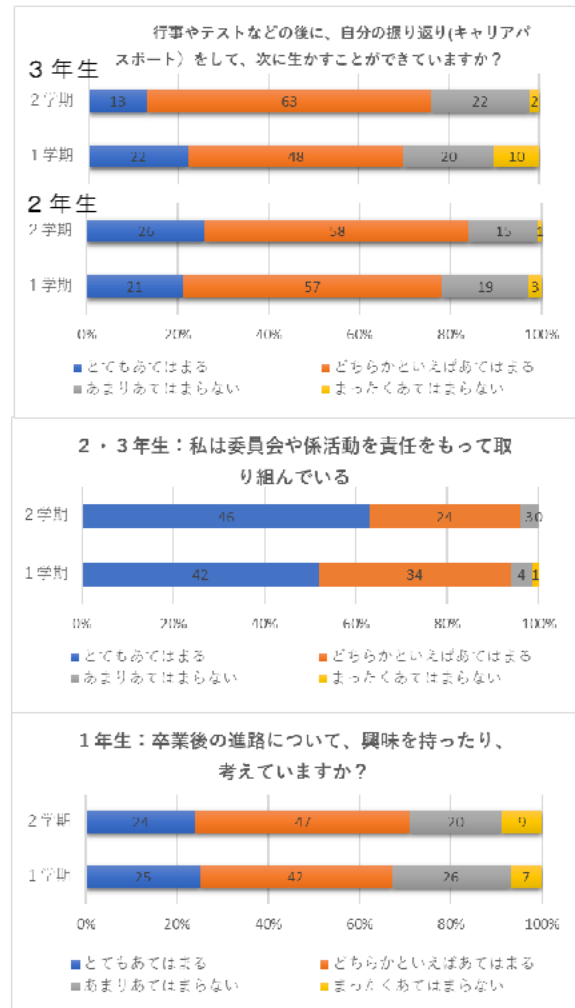
コロナ禍を脱した今年度は、昨年度までより地域の方との交流がしやすくなった。また、生徒がICTに慣れ親しんでいることにより、活用の幅が広がった。資料29によると、「私は今、自分の夢や目標に向かって努力したり頑張ったりしている」という項目が、2・3年生ともに、1学期から2学期にかけて伸びが大きかった。特に3年生の数値は非常に高い数値となった。



資料29 生徒アンケート結果

資料 30 のように、2・3 年生は「行事やテストなどの後に、自分の振り返り（キャリアパスポート）をして、次に生かすことができているか」の質問に、肯定的に答えた生徒の数が 1 学期から 2 学期にかけて伸びがあった。さらに、「私は委員会や係活動を責任をもって取り組んでいる」の伸びもあり、意欲が向上してきた様子が窺えた。1 年生は、特に「卒業後の進路について、興味を持ったり、考えていますか。」の値に伸びがあった。

以上のように、キャリア部会の取組により、生徒の主体性や学校生活への意欲を向上させ、生徒の人格形成や、学級風土づくりに一定の効果があったと考えられる。



資料 30 生徒アンケート結果

② 課題

アンケートの結果によると、2・3 年生の伸びを多く感じる半面、1 年生は、数値が現状維持または若干下がっている印象を受けた。1 学期の何にでも興味を持っていた頃よりも学校生活に慣れてきて、値に反映しなかったと考えられる。今後、2 年生、3 年生と取組をステップアップさせていく中で、いかに将来の夢や目標を持たせていけるのかが課題である。

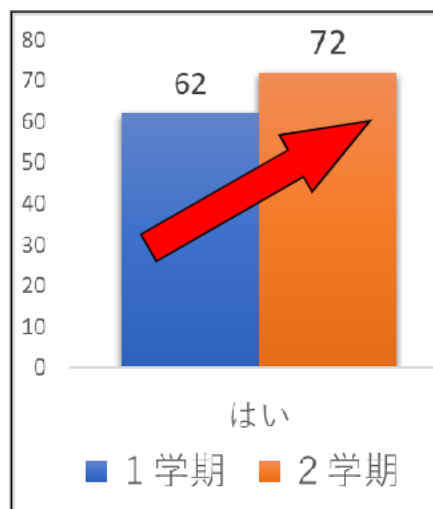
(3) 仮説 3 について (家庭学習部会)

【仮説 3】 日々の学習を自分で計画する取組を行い、生徒の主体的に学ぶ態度や学習意欲を高めていけば、家庭学習が習慣化され、学力向上につながるだろう。

① 成果

資料 31 は、今年度の生徒アンケート「あなたは前の学年と比べて、学習のやり方を工夫したか？」という項目で、1 学期と 2 学期の数値を比較したものである。「はい」の割合が 10% 増えて 72% となり、家庭学習のやり方を工夫していることが分かる。

「はい」を選んだ生徒のきっかけ (資料 32) を見てみると、テストの点数を伸ばしたいという意欲のある生徒や学習成果を実感している生徒が増えてきていることが分かる。



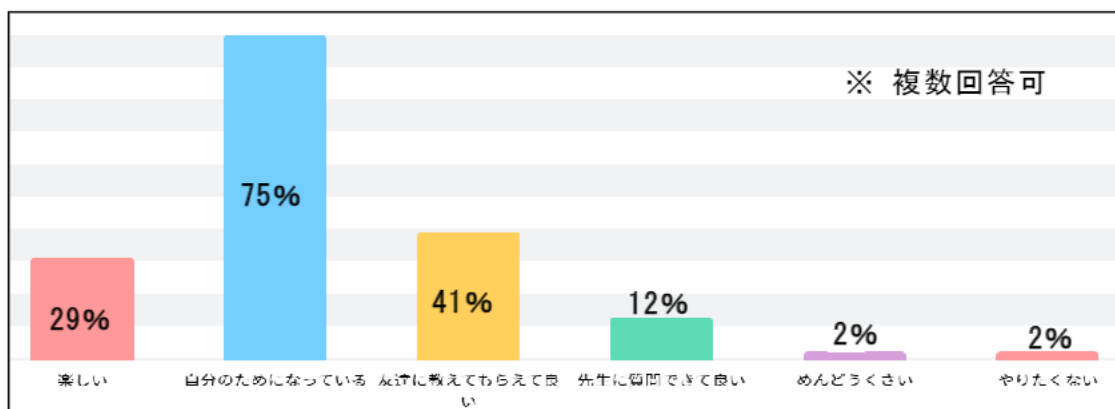
資料 31 生徒アンケート結果

「はい」を選んだ生徒の、家庭学習を工夫しようと思ったきっかけは？

- | | |
|-----|---------------------|
| 1 位 | テストの点数をもっと伸ばしたい |
| 2 位 | 勉強したら点数が伸びた |
| 3 位 | 先生、家族、友達、先輩からのアドバイス |
| 4 位 | 友達のノートを参考にした |

資料 32 「はい」を選んだ生徒のきっかけの内訳

今年度の取組である学習時間の「可視化」や自分に合った学習計画づくりなどにより、自分が思っている目標と自分の行動について具体的に振り返ることができた。学習時間を確保しても結果がついてこなかった生徒が、自分の努力を認める感想を持っていたり、「自分は勉強をしているのにできない」と思っていた生徒が自分自身の学習時間が少ないことを振り返ったりしていた。学習の積み上げが見えるようになることで、生徒自身のやる気や自信につながり、それが家庭学習の習慣化へとつながっている。



資料 33 1UP タイムについての生徒アンケート結果

資料 33 は、全校生徒アンケート「1UP タイムについてどのように感じたか」の結果である。全体の4分の3の生徒は、「自分のためになっている」と回答し、週1回15分間の中でも十分に学びを実感していることが分かる。また、41%の生徒が「友達に教えてもらって良い」と回答し、前述した生徒の感想からも、教え合いの効果が高かったと考えられる。

② 課題

課題としては、学習計画表が紙媒体で、生徒の書く手間になったことがあげられる。配付や管理の方法を簡単にすることができないか検討する必要があると感じた。来年度以降は、ICTを活用して効率的に記録を取り、積み上げを可視化できるようにしていきたい。

「1UP タイム」についての生徒アンケートで、「もっと回数を増やしたい」「もっと時間を長くしたい」などの意見や、「学年や学校全体で取り組みたい」という意見があった。今年度はクラス単位での活動が主であったが、来年度は学年や学校全体での取組も考えていきたい。

(4) 県学力・学習状況調査の結果より

表 34 は、熊本県学力・学習状況調査における、本校の正答率を県平均と比較したものである。

表 34 県学力・学習状況調査の結果

1年生は国語が平均程度、数学は大きく上回った。数学は、少人数指導を実施し、加えて補充や個別の指導を計画的に継続し、定着の面で大きな成果をあげた。2年生は、国語と数学が県平均

		国語	数学	英語
1年	校内 平均正答率	60.6	66.6	46.1
	県平均との差	-1.4	+11.2	-5.2
	前年度県平均との差			
	評価	≒	△	▼
2年	校内 平均正答率	65.6	46.9	44.3
	県平均との差	↑ -2.3	-2.7	↓ -2.0
	前年度県平均との差	↑ -2.8	-2.7	↓ 0.5
	評価	≒	≒	▼

均に迫り、国語は経年比較で向上がみられた。英語は、1、2年生ともに定着の面では大きな課題があった。ただし、意識調査で「英語の内容が分かる」と答える生徒の割合は伸びてきている。生徒が、より学びの主体となるように、指導法の工夫・改善をさらに図る必要がある。

次に示した表 35 は、熊本県学力・学習状況調査の質問紙結果を経年比較したものである。

表 35 熊本県学力・学習状況調査の質問紙結果 (数値は%)

質問項目	年度	割合	前年度との差
① 将来について、夢や目標がありますか？ (※1)	R3	66.2	
	R4	72.4	+6.2 ◎
	R5	69.9	-2.5 ▲
② 家で勉強する時に、自分で計画を立てていますか？ (※1)	R3	35.6	
	R4	47.0	+11.4 ◎
	R5	53.1	+6.1 ◎
③ 授業や宿題で分からない問題があった時そのままにしている。	R3	—	
	R4	12.2	
	R5	11.3	-0.9 ○

※数値は、各年度の1，2年生の平均値 (※1) 肯定的な回答の割合

学校全体の課題であった「② 家で勉強する時に、自分で計画を立てていますか？」や「③ 授業や宿題で分からない問題があった時どうしていますか？」の項目の数値について、大きく向上が見られ、県平均にあと一歩まで迫ってきている。3部会による学習指導方法の改善により、生徒が大きく変容してきた成果が窺える。一方で、「① 将来について、夢や目標がありますか？」の項目は、次年度へ向けての課題となった。

さらに、学力重点支援地域としての成果と課題についても振り返る。表 36 は、令和3年度からの学習状況の変容についてまとめたものである。

表 36 本校生徒の学習状況の変容 (数値は%)

調査項目	令和3年度 県学調	令和4年度 県学調	令和5年度			令和6年度 今2年						
			全学調4月3年	9月生徒アンケート	11月生徒アンケート							
キャリア教育・進路教育(プロジェクト)	1 将来あんな人になりたい、こんな仕事に就きたい、こんなことがしたい、という夢や目標がある。	66.2	72.4	61.5	65.3	67.4	伸びているがまだまだこれから!	85	69.9			
	2 学校で学んだことは、将来社会に出たとき役に立つ	86	90.2	85.9	87.7	88.9	目標に近づいた!	92	87.3			
	3 家で勉強するときは、自分で計画を立てている(家庭学習の計画) *県参考指標	35.6	47	56.4	53	57.6	目標に近づいた!	60	52.9			
	4 先生は、分かるまで教えてくれる	86.6	89.3	89.8	ほぼ達成!			90	90.2			
県参考指標	5 授業では自分で考え、自分から取り組んでいる		70.2	80.8	82	81.6	さらに伸ばすぞ!	75	77.1			
	6 国語の授業内容はよく分かる【全学調】	82.4	70.2	89.7	さらに伸ばすぞ!			81.4	76.5			
	7 数学の授業内容はよく分かる【全学調】	41.9	67.8	55.1	もっと伸ばすぞ!			85.6	67.1			
	8 英語の授業内容はよく分かる【全学調】			52.6	もっと伸ばすぞ!			62.9	60.0			
	9 授業や宿題で分からないことがあったとき、どうしていますか。→そのままでしている。		R4全学調22.6 ↓ 12.2		13.7	14.7	懸念▲1UPも活用を!	12	11.3			
学校調査	10 甲佐中学校の生徒でよかったと思う。	91.7	83.8		94.3	94	キープ!もっと伸ばすぞ	95				

 は県平均を下回る。項目10も同様である。 は県平均を上回る。令和5年度については、令和3または4年度からの比較で上回れば青、下回ればオレンジで表している。なお、令和3、4年度の項目6から8は全学調の数値である。

表 36 の結果から、生徒を学びの主体とする指導の充実が図られてきたことが分かる。また、令和 5 年度県学力・学習状況調査における学校教師質問紙調査の結果（表 37）では、全ての項目において高い肯定率であり、教師が高い意識のもとで学習指導に臨んできたことが窺える。このように、令和 5 年度全国学力・学習状況調査結果を共有後、1 年間を通じて、アンケートで進捗を全職員で確かめながら研究の歩みを進めていった。

表 37 R5 年度学校教師質問紙調査の結果（抜粋）

項 目	肯定率
あなたは、授業等に関わる児童生徒に対して、学校生活の中で児童生徒一人一人の良い点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組をどの程度行っていますか。	100%
あなたは、授業に当たって、単元終了時の児童生徒の姿を具体的にイメージして指導を行っていますか。	100%
あなたは、授業で、文章、絵や写真、図や表、グラフなどを関連づけて読み取らせ、考えたことなどを表現させるような活動を行っていますか。	90%
あなたは、日々の授業の中で、児童生徒が自分の思いや考えを書いたり、発表したり、また、児童生徒間で、問題解決の方法等について意見を交換する場を設けていますか。	95%
あなたは、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れていますか。	85%

2 今後の志向

今年度は、3 部会の取組により生徒の学習意欲や学力向上に一定の成果を残すことができた。特に、近年の本校の課題であった、家庭学習で自ら計画を立てる力が育ってきたことや、キャリア教育で将来への有用感を感じさせることができたことは大きな成果であった。

一方で、実践したことで新たな課題点も明らかになってきている。1 つ目は、夢や目標がもてない生徒がいかに将来を見つめられるようにしていくのかである。キャリア教育は、今後も本校研究の柱の一つとして継続して研究していきたいと考える。2 つ目は、研究の効率化や省力化をいかに進めるかである。今年度新しく始めた取組もあったが、すべてに力を入れて取り組むことは現実的に難しく、来年度はどの取組に力を入れていくのかを精査していきたい。今後、これら 2 つの課題を職員で共有して改善策を模索したい。

諸学力調査の結果は厳しいものの、少しずつ改善の傾向にあり、意欲面では経年比較で大きく向上が見られている。さらに、従来の指導方法に固執せず、新しい考え方を取り入れたり、ICT 機器を活用したりする教師が増え、変化を恐れずに挑戦しようとする集団になってきている。これらの生徒や教師の変容を励みにして、目の前の生徒と共に学びながら、今後も研究を推進したい。そして、甲佐中の生徒も教師も「取り組んでよかった。」と思えるような研究実践を積み重ねていきたい。

おわりに

ある学級の生徒と何気ない会話をしていた時に、一人の生徒が「今年は去年までと変わったことが多いですね。けど、何だか学校楽しいです。」と言った。変わったのは、「学校」か「教師」か「周りの生徒」か、それとも自分自身だろうか。3年前から先生方と種をまき育ててきた研究実践が、今年度少しずつ芽吹いてきたことを感じさせる、この言葉を聞くことができ本当に嬉しかった。

今年度、学力の個人差に関わらず、すべての生徒が学びを実感し、学校生活の充実や将来への希望につながることを目指して研究を推進してきた。まだまだ、改善が必要な部分はあるが、生徒の意欲が向上し、覇気みなぎる生徒へと変容しつつあることは大きな成果であったと言えるだろう。

「好きこそ物の上手なれ」と言う。意欲面の向上が、今すぐに学力に結びつくとは限らない。ただ、その子が感じた「面白い」や「楽しい」が、将来「もっと学びたい」につながってくれることを願う。また、成功や失敗を重ねて試行錯誤しながらも主体的に考え行動した経験が、今後の生徒たちの成長の土台になってくれれば幸いである。

3年間の「学力向上重点支援地域事業」では、熊本県教育委員会、上益城教育事務所、甲佐町教育委員会など、多方面から手厚い支援や指導を賜り、学校全体が大いに変容し、前進することができた。心より感謝申し上げたい。指定期間は今年度で一つの区切りを迎えるが、熊本の学びの推進や本校研究の歩みを止めることなく、更なる教育活動に挑戦していきたい。

令和6年2月13日

甲佐町立甲佐中学校 研究同人

参考・引用文献

- 文部科学省（平成 29 年 3 月告示） 『中学校学習指導要領』
- 文部科学省（平成 29 年 7 月告示） 『中学校学習指導要領解説 一総則編一』
- 奈須正裕（2017）「資質・能力」と学びのメカニズム 東洋館出版社
- 主婦の友社（2019）『学力日本一!』秋田県東成瀬村のすごい学習法 主婦の友社
- 熊本県立教育センター（2016）「熊本県立教育センター研究紀要パンフレット」
- 熊本県立教育センター（2016）「授業改革ガイドブック 実践編」
- 国立教育政策研究所教育課程研究センター（2020）
『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 東洋館出版社
- 熊本県教育委員会(2021)
「熊本の学び推進プラン～熊本の未来の創り手となる子供たちの学び～」
- 有田和正（1996）「新ノート指導の技術」明治図書
- 明里康弘（2015）「どんな学級にも使えるエンカウンター 20 選 中学校」

甲佐中学校 研究同人

西本仁史	松崎秀誓	松倉康德	久米直子	鉦先智佳子
成瀬由紀	北里美鈴	大津和浩	京都麻衣子	藤堂亜里砂
橋本昌明	古閑広憲	酒井健太郎	小幡侑貴	松本正伸
寺尾ゆき	西田美咲樹	村本賢志	佐藤友則	松田孝一
高森美里	瀬戸香菜美	嶽本功一	赤星瑞季	桑村聡子
伊藤恵子	田上和美	河津由依	田尻美幸	西村秀子
竹田千尋	須藤 薫	大内 毅	船津亜由美	バルーシ